

第1回 市民ワークショップ

「地区の将来、こんな豊野を作りたい」 をテーマにグループ作業を行いました

7月28日(土)豊野支所で「地区の公共施設を考える」市民ワークショップを開催しました。

長野市や豊野地区の公共施設の現状や課題などの説明を聞いた後、地元の方30人のメンバーと信州大学工学部羽藤研究室の学生のみなさんでグループワークを行いました。

各グループで「こんな豊野にしたい」「どんなサービスが必要か」をふせんに書いて討議し、そのまとめを発表していただきました。

最初は遠慮がちだった方も、時間が進むにつれ、打ち解けて、討議も盛り上がりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



グループ作業の様子 熱心に話し合っていました

今後の予定		内容(予定)	会場
第2回	8月18日(土) 14:00-16:00	◇グループ討議 テーマ 「検討対象を絞り込もう」 「公共施設でしたいこと・活動を具体的に考えよう」	豊野支所 (3階会議室)
最終回	9月15日(土) 15:30-17:30	◇グループ討議 テーマ 「豊野地区の公共施設の将来像について考えよう」 ◇発表、まとめ	

◇途中からの参加も可能なワークショップです。見学のみも大歓迎！事前申し込み不要です。ぜひ会場にお越しください。

◇長野市公式ホームページ
「公共施設マネジメント推進課」に
当日の資料などを
掲載していますので、
ご覧ください。



【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

豊野支所

電話:224-7592

電話:257-3131



《ワークショップの目的》

公共施設マネジメントの考え方にご理解いただくとともに、公共施設見直しの計画策定前の段階から、市民の皆さまと市と一緒に考える地域の公共施設に関する試みです

人口減少時代の中、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流を生み出す複合化・多機能化など、様々なアイデアを公共施設再配置計画の参考にしたいと考えています

各グループの発表の一部を紹介します



【豊野の将来、こんな地区を作りたい】

- ◇世代間の交流ができるまち→住民同士が集まって、くつろぐことができる場がほしい
- ◇子供が多く、子供にやさしいまち→子供が自由に学習できる施設、集まれる施設がほしい
- ◇若者が帰ってきたいと思えるまち
- ◇福祉が充実したまち→ボランティアが活躍し、運営する施設
- ◇高齢者が楽しく住める町→福祉の充実、移動手段
- ◇健康寿命を延ばす生活とまちづくり→講座ができる施設
- ◇りんご、ぶどうが美しく実る、自然が豊かな町→農作物のブランド化→売る場所
- ◇マルシェを開催したい
- ◇都会の人の誘致→都会の人の家庭菜園、都会の企業にサテライトオフィスを置いてもらい、余暇に農業を（農業の新しいかたち）
- ◇豊野の情報を発信できる場所があればいい
- ◇水害が多い→水没や地滑りに左右されない避難場所がほしい



ほかにもたくさんの意見が出ました

参加者アンケートから

- ◆子供・福祉・地域コミュニティー・防災・農業等が各グループほぼ共通だと思った。
- ◆サテライトオフィスと農業の関係はおもしろい。
- ◆農業の活性化の話がとても良い話。公共施設と関係できるか今度のワークショップが楽しみ。
- ◆地区がまず大切というのがよくわかった。
- ◆時間が限られた中で意見を出すのは大変ですが、楽しかった。
- ◆緊張しましたが続けて頑張ります。
- ◆考えが違うことが面白いと感じました。向き合うこと、こういう場も大切ですね。



アドバイザーの羽藤広輔先生(信州大学工学部准教授)のコメントを紹介します

- 公共施設を考えていくうえで、まず箱から考えるのではなくて生活そのものから考えるということで、今日は良いステップになった。
- 皆さんに自由に話し合ってもらうことによって、地域での生活の目指すべきスタイル、生活の在り方が見えてくるのではないかと思います。
- 今日の意見をベースに次回以降、公共施設の在り方について議論できればと思っている。